

《発行》中津市ボランティア・市民活動センター（中津市教育福祉センター内）
〒871-0021 中津市沖代町1-1-11 TEL 23-2095 FAX 24-7682
ホームページ http://www8.ocn.ne.jp/~pengin6 E-MAIL volunteer@nakatsu-s.or.jp

第3回

みんなの“ふくしまつり”

開催!!

平成23年11月27日(日)

午前10時から午後2時まで

会場：中津市教育福祉センター&フレーパーク

～参加費～

ペットボトル

キャップ1個

アトラクション

- ◇“ケーナ”と“ピアノ”のコンサート
- ◇幼稚園児によるダンス
- ◇どじょうすくい
- ◇シャイニングボウズ（バンド演奏）
- ◇3B体操

など

参加体験コーナー

- ◇東日本大震災の被災地支援
- ◇移動児童館～万華鏡づくりに挑戦～
- ◇自助具作り
- ◇障がい者スポーツ体験（卓球バレー）
- ◇ミニプレーパーク
- ◇くるくるパン・遊び

など

見るコーナー

- ◇山国かし
- ◇ペットボトル風車
- ◇福祉施設の作品展示

など

賞品ゲットの

チャンスあり!!

☆参加者全員参加
お楽しみ抽選会☆

“あっかんべ”もやってくる!



あ! 官兵衛

主催：第3回みんなの“ふくしまつり”実行委員会 / 中津市社会福祉協議会
協力：地域ボランティア沖代すずめ・エンゼル・地域サロンのじこ・地域サロン福ろうの家・源流の郷やま
くに福祉の会・発達障がい児親の会「たんぽぽの会」・みんなで遊び場をつくろう会・中津レクリエーション
協会・NPO法人水辺に遊ぶ会・障がい者生活支援センターエマオ・児童家庭支援センター「和」・
中津市民生委員児童委員連合協議会・社団法人 中津青年会議所

♪「ふくし」を「みんなのふくし」に♪

みんなの“ふくしまつり”は、中津市内の子どもから高齢者まで楽しみながら地域に身近なボランティア市民活動やさまざまな活動に触れていただくことで、世代や障がいを越えた市民の参加と交流を目的として開催します。

当日は、アトラクションや参加体験・見るコーナー、屋台村などさまざまな催しでにぎわいます。ご家族やご近所の方をお誘い合わせの上、ぜひお越しください。



昨年のようす



給食ボランティアおすすめの一品

『豚肉ピカタ』

材料 豚ひれ (480g)、塩・コショウ (少々)、小麦粉・卵・油 (少々) ※4人分の材料です

手順① 包丁の腹で肉を叩き、塩コショウをする

手順② ひれ肉に小麦粉をまぶす

手順③ 卵を溶きほぐし、②にまんべんなくたっぷりつける

手順④ フライパンに油を熱し、豚肉を片面2分位ずつ焼く

一品提供グループ～

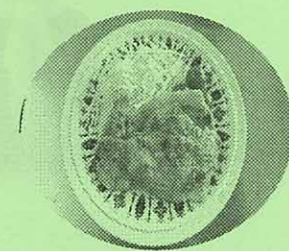
『みやぶ会』

会員数 12名

活動日 第4月曜日

活動地域・地区場所

宮井地区

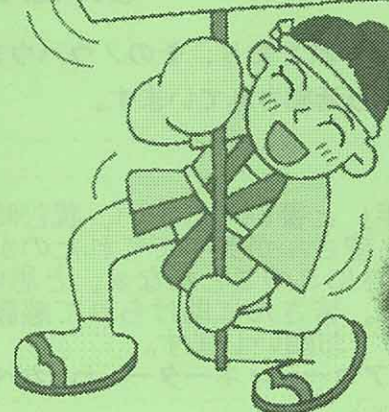


☆会のみなさんから一言☆

毎回、心をこめて楽しくみんなで作っています。メンバーが少ないのが悩みの種です。男性も大歓迎ですので、関心のある方は一度おいで下さい。お待ちしております!!

「屋台村」今年も開店します!

- ◇たこやき ◇やきそば
- ◇団子汁・わた菓子
- ◇カレーライス
- ◇からあげ・フライドポテト
- ◇クッキー ◇焼きたてパン
- ◇バザー など



被災地でのボランティア活動を通して見えてきたこと

3/11の発生から未曾有の被害をもたらしている東日本大震災。被災地の方々の何かお役に立ちたい！という思いのもと、実際に被災地に行き、ボランティア活動をされた方も、中津市内に多くいらっしゃいます。ここでは実際に災害ボランティア活動をされた方の生の声も少しですが掲載いたします。

「避難所でのボランティア活動を行って」

私は6月末、福島県の避難所で看護師としてボランティア活動を行いました。車中泊できる準備はしていましたが、避難所に横になれるスペースがあるとのことで、被災者の方と一緒に生活する事となりました。そこではプライバシー保護のためのついたてがありましたが、立ち上がると人の生活が見える状態です。また、何をしても音がよく響き、「静かに、静かに」と、とても気をつかいました。

時期的に暑くなってきており、じっとしていても汗ばむ状態でしたが、エアコンはもちろん扇風機もありません。熱中症を起こす恐れもあったため、避難所管理をされてる方に働きかけを行いました。被災者の方からは不思議と苦情は聞かれませんでした。

ここでの私の活動は主に被災者の体調管理（精神面も含めた）、衛生管理、3食の食事の準備でした。朝6時に起床し活動開始、夜9時消灯後は引き継ぎのための書類の整理を行いました。ちょうど、週一回来所される地元保健師の方、ボランティアの理学療法士の方と会う事ができたので、情報を共有し援助につなげていきました。

被災者の多くは震災時のショック、原発の今後の見通し、今後の生活の不安、不自由な避難所生活等といったストレスから、血圧不安定、食欲不振、意欲の低下を引き起こしていました。話を伺うと「震災直後はひどかった。雪が降り寒い中、毛布1枚で暖がとれるはずもなくガタガタ震えていた。食事は一日でコンビニのおにぎり2個だけ、冷たいし、

堅いし……。腹が減るからとにかく口に入れた……。」あまりのむごさに言葉がありませんでした。被災者の方々はこのような苛酷な状況を経てきており、その経験が避難所の苦情の少なさにつながっていたと知りました。

この避難所は、9月初めにみなさん仮設住宅等に入ることができ、閉鎖されたと聞きました。被災された皆さんが安心してできる生活を一日でも早く送れるよう願うばかりです。

(文：高丸 陽子氏)

※高丸氏は看護師として働かれており、そのノウハウを生かし、自ら被災地へ何度も足を運び活動されています。

へんしゅうこうき

先日、大事な会議の資料にあり得ない「20011年」と書いてしまい、読む時も気がつかず……。会議中に課長からの指摘でやっと、トホホ。皆さんが笑ってくれたのが何よりのお許しだと思ってますが……。顔から火が出るとはまさにこのことだなあ、と思いました。それ以来、数字を見るたびに自分のふがいなさが……。皆さんに助けられて感謝、感謝の日々を送っているわたくしです。どうぞ、あたたかい目をお願いします。

～ボランティアコーディネーター：わたなべゆかり～

3月11日午後2時46分、東北沖の太平洋で起きた「東日本大震災」から既に7ヵ月が経過。震災直後、中津駅での被災地支援の募金活動に参加した。行き交う市民や高校生などからの「善意」を新聞社を通じ被災地へ送った。「一人では被災地に入っても状況不明の中では役に立たない。」と感じていた。

震災から3ヶ月過ぎた6月中旬、宮城県気仙沼に大分県社会福祉協議会の募集でボランティアバスを出すとの情報を聞き、即応募した。「集まれば力になれる。何かの役に立ちたい」との思いで参加した。

現地はテレビ、新聞の報道をはるかにしのぐ現実だった。カツオの水揚げ14年連続日本一を誇る漁場の町、気仙沼は、津波によりすべての燃料タンクが倒れ、流失した油で火災が発生し、炎が瓦礫と化した家屋と町を飲みこんでしまい、沿岸付近や河川沿いの住宅地だったと思われる低地には人々の生活観さえ見る影もない。『今までここで生活をしていた多くの方たちはどこへ行ったんだろうか。』

主要な幹線を走り作業へ向かう、そこに近道はない。復旧・復興も同じだと思った。地道な作業がこれから何年続くのだろうか。

現地での実質4日間の支援生活の中で、被災者から直接聞いた話だが、「津波は当然想定していたが、津波警報がでて過去津波の規模が小さかったのも、まさかとの思いも強く、家の中で被災された高齢者の方や小高い地域指定の避難場所において想定外の津波に飲み込まれた方も多かった。」とのこと。

我々もあらゆる事象を想定し、地域避難場所の見直しや災害時弱者をひとりも見逃さないために、いかにあるべきか。」「見守りネットワーク活動の機能充実等について真剣に考えられた現地での活動だった。皆さんも機会を求め、是非現地の状況実態を確認し、伝えていくことが大事だと思います。

(文：橘 晴彦氏)

※橘氏は災害ボランティアバス「めじろん1号」で被災地へ行き、ボランティア活動を行いました。そこでの経験を生かし、地域での見守りネットワーク活動などに積極的に取り組んでいます。

